

平成2年6月23日

白翠会会員各位

6月2日に松島公園にて執り行なわれました“東北ヨット発祥の地”記念
碑除幕式は、松島町長・宮城県ヨット連盟をはじめとする地元関係者、白翠
会会員、東北大学ヨット部員の出席のもと、盛会裡の内に無事終了するこ
とができました。

つきましては出席された会員の皆様に、下記のとおり式典の記念写真、ス
ナップ、新聞報道コピーを送付いたします。

白翠会代表幹事

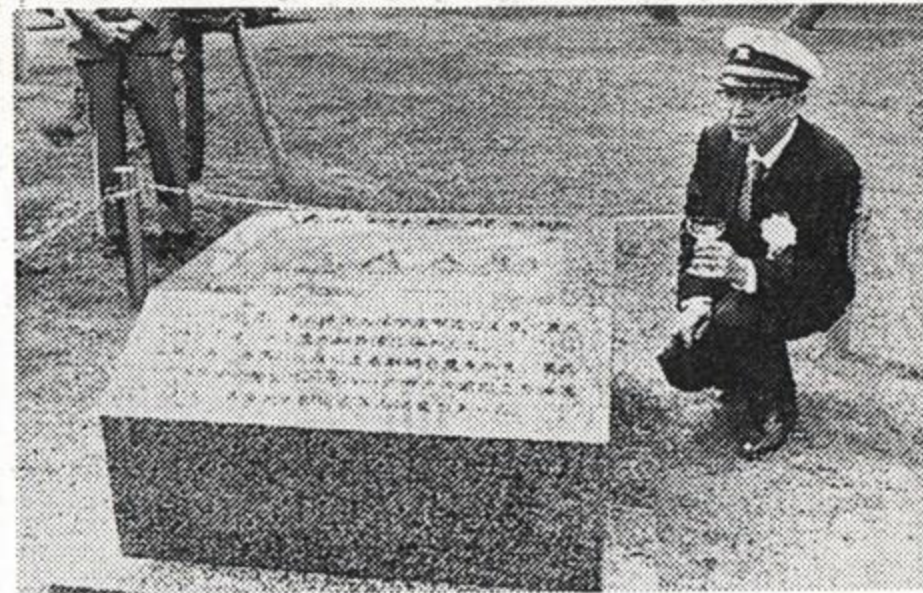
高 橋 三 男

松島公園

東北の発祥地 記念碑を除幕

ヨット

東北ヨット発祥の地・松島に完成した
記念碑
〓松島公園で



今から五十年以上前、当時の東北帝国大学（現東北大学）の学生が、東北地方としては初めてヨットを、松島で帆走させたことを記念して、ヨット発祥の地とする記念碑が松島町の松島公園内に建てられ、二日、その除幕式が行われた。

記念碑を建てたのは、東北大学ヨット部OBでつくる白翠会と東北ヨット協会。記念碑は当時のヨットの写真をもとに作製したレリーフをはめこんだ高さ五十センチ、縦横九十センチのみかけ石製。

白翠会などによると、戦時色が強くなった一九三八年（昭和十三年）に東北帝国大学の学生有志が、各界の協力で松島に十二のヨット計六隻を浮かべた。その年の九月には東北ヨット協会が発足し、松島は東北地方のヨットのメッカとしても知られるようになった。

白翠会の会長、福島弘毅さん

（七九）仙台在住はヨット部二代目の部長。「授業をさぼって練習ばかりしていた。戦時色が強まっていたが、ヨットは海洋訓練になる、と言って、海軍も大目に見てくれました」と思い出を語る。

除幕式では、東北大ヨット部の現役学生ら約六十人が見守る中、福島さんら六人が除幕を行った後、全員でシャンペンで乾杯して記念碑完成を祝った。

H2.6.3. 朝日

東北地方でのヨット 発祥地に記念碑建立

松島

松島町の仙石線松島海岸駅近くの公園に「東北ヨット発祥の地」と刻んだ記念碑が建立され、二日、除幕式が行われた。昭和十三年の春、東北地方で初めてヨットが浮かんだのを記念して、東北ヨット協会と東北大ヨット部OBで組織する白翠会が、ゆかりのパークホテル跡地に建てた。

除幕式には、福島弘毅・白翠会長や坂東浩・松島町長らが出席し、東北大の現役、OBのヨット部員が見守る中で、除幕のひもを引いた写真。記念碑は彫刻家・鷹尾



俊一さんが当時の写真を基に制作したレリーフ。五十二年、松島湾で行われた試乗会には、モーニングを着て、中折れ帽をかぶった本多光太郎・東北帝大総長の姿も見られたという。

H2.6.4. 河北

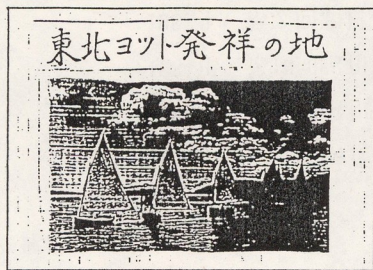
東北大学ヨット部創立50周年記念事業の一環として、「東北ヨット発祥の地」の記念碑を、松島パークホテル跡地であるこの地に、設立いたしました。

昭和13年、東北水域で初めて浮かんだヨットの姿を、新進気鋭の彫刻家である鷹尾俊一氏に依頼して、レリーフにしました。

鷹尾俊一氏の経歴と、記念碑の概要を、ここにお知らせいたします。

(題字 白翠会会長 福島弘樹氏)

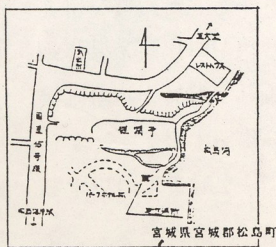
「東北ヨット発祥の地」記念碑



— 題字・レリーフ —

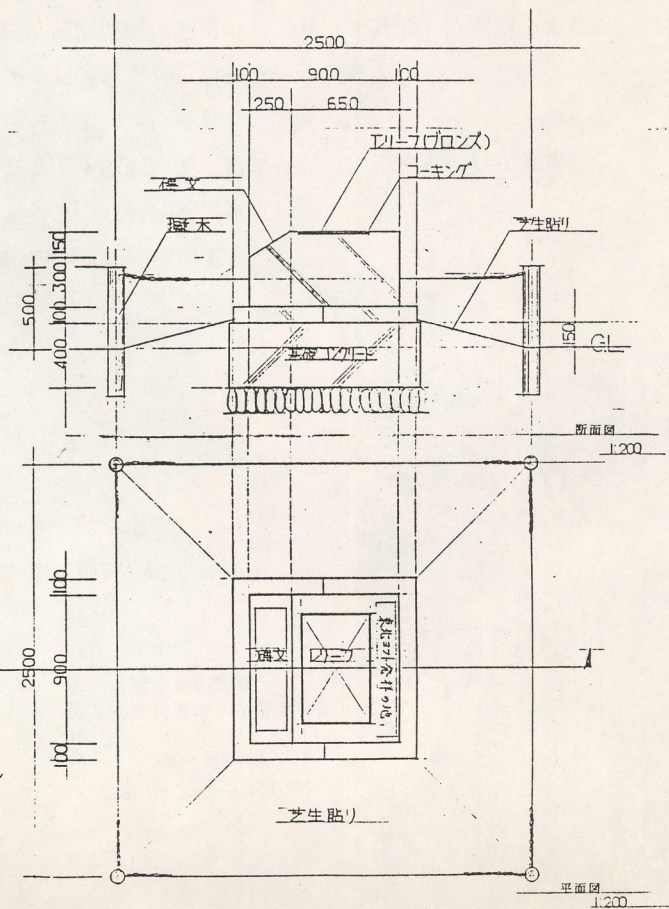
昭和13年5月、東北帝国大学学芸部により、東北水産物のヨット2隻が松島湾に浮かんだ。同年9月、各県の漁獲による新船も実を兼ね、東北ヨット協会の発会式が元パークホテル前のこの海面で行われ、本多光太郎校長等の祝意があった。

— 碑文 —

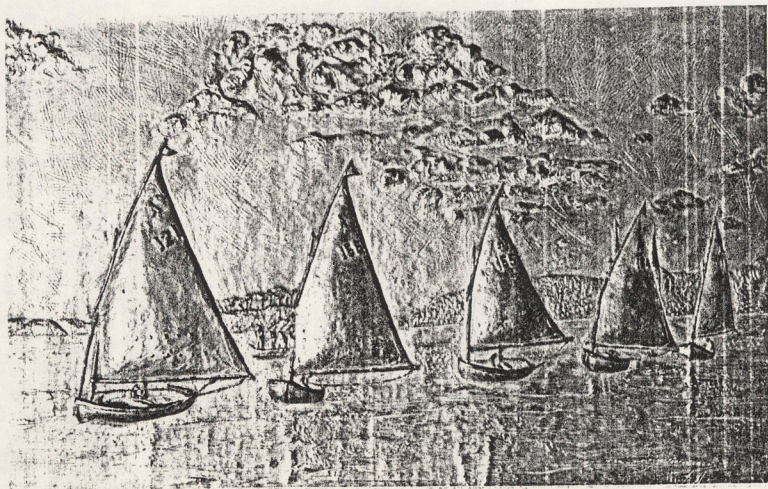


案内図

仕様	
台座・本体	赤御影 (パルモラル)
レリーフ	ブロンズ ア25mm
柵	製木・ステンレスチェーン
基礎	コンクリート150k/cm ²
	鉄筋10mm@200



「東北ヨット発祥の地」記念碑



事実の向こう側から

宮本 輝

およそ造形というものに対して正直な労苦を惜しまない者は、この世に存在しない架空物に心を注ぐことを全否定する。見たこともないものをでっちあげたりする人は、芸術における真の実践者ではないともいえるだろう。

しかし、事実を忠実に再現しただけでは、創造物は永遠に何も語らない。それが、芸の術の不思議なのだ。

おそらく、彫刻家・鷹尾俊一氏の眼目もまた、この不変にして普遍的な基本を強固な土台にしている。彼は、事実に対して徹底的に謙虚でありつつ、そこから自分だけの何かを掬いあげようとしてきた。そのとき、鷹尾氏の手は、彼だけの異物を絞り出したり、逆に空洞をつかんだりして、事実の向こう側にある精神の故郷に似た、懐かしくて近しい何物かを彫刻するのであろう。

自分という一個の人間が、いかに多くの欺瞞や汚濁やよるべなさによって造形されているかを知っている人は、鷹尾氏の彫刻物をちらっと見てそのまま通り過ぎようとし、ふと足を停めて、あらためて目を凝らすだろう。それ以外の人にとっては、いまのところ、鷹尾氏の作品は無用の長物にしかすぎない。それは、ただの異物としか映らないかもしれない。だが、足を停め、作品の顔をつ

ぶさに観れば、かつて自分が味わった最大の哀しみの際、どのような泣き顔を蔵していたかに気づかされる。そのとき、どのように自分が崩れていったかを思い出す。私は、そのような独自の芸として、鷹尾氏の作品を評価している。

巨大な雑踏の中の顔をすべて集約して、ひとりの人間へと造形したときの姿——。それが、鷹尾氏の作品の独自性だと思う。そしてそのことは、〈仮面はいつか顔になる〉という言葉をもタフマジックに反転してみせてもいる。それこそが、鷹尾氏の芸だとすれば、彼は自らがつかんで放さない〈事実〉の向こう側から、いつも歩いてこようとしているわけだ。

だからこそ、その頑固な足取りは、ときに異物だけを掬いあげたり、ときによるべなさだけを運んでくるという誤解を与える場合もあるだろう。にもかかわらず、なお、私は鷹尾俊一という春秋に富む彫刻家の作品から、顔になってしまった仮面の過去世を覗き見てしまうのである。

(作家)

SHUN-ICHI TAKAGI 鷹尾俊一彫刻展

鷹尾氏は日本大学芸術学部彫刻科で、具象彫刻界の重鎮である柳原義達氏のもとに、その基礎を学びました。卒業後すぐに新制作展で新作家賞を受賞。彫刻家としての大きな一歩を踏み出しております。その後、昭和会賞展優秀賞・神戸具象彫刻大賞展優秀賞・高村光太郎大賞展特別優秀賞などを受賞し活躍する一方、各地のモニュマン制作に意欲的に取り組んでいます。

作品は、人体をモチーフにしていますが、表面的なりアリティを追求するのとは違って、人体を徹底的に見つめ、また離れて、否定していった果てに湧き現われてくる、秘められたフォルムを探し出すことに主眼があります。

作品の肌は、おだやかなマッサ・ゆるやかな稜線、かと思うと深い亀裂が走り、ゴツゴツと荒れて風化してしまい、まるで地球そのものの地肌にも似て、肉付けと開削の探索が広がっています。人体を通して人体でないメタモルフォーゼされたフォルム。鷹尾氏は、自然を真正面から見据え、自身の内なる生命空間を武骨に執拗に刻みつづけています。

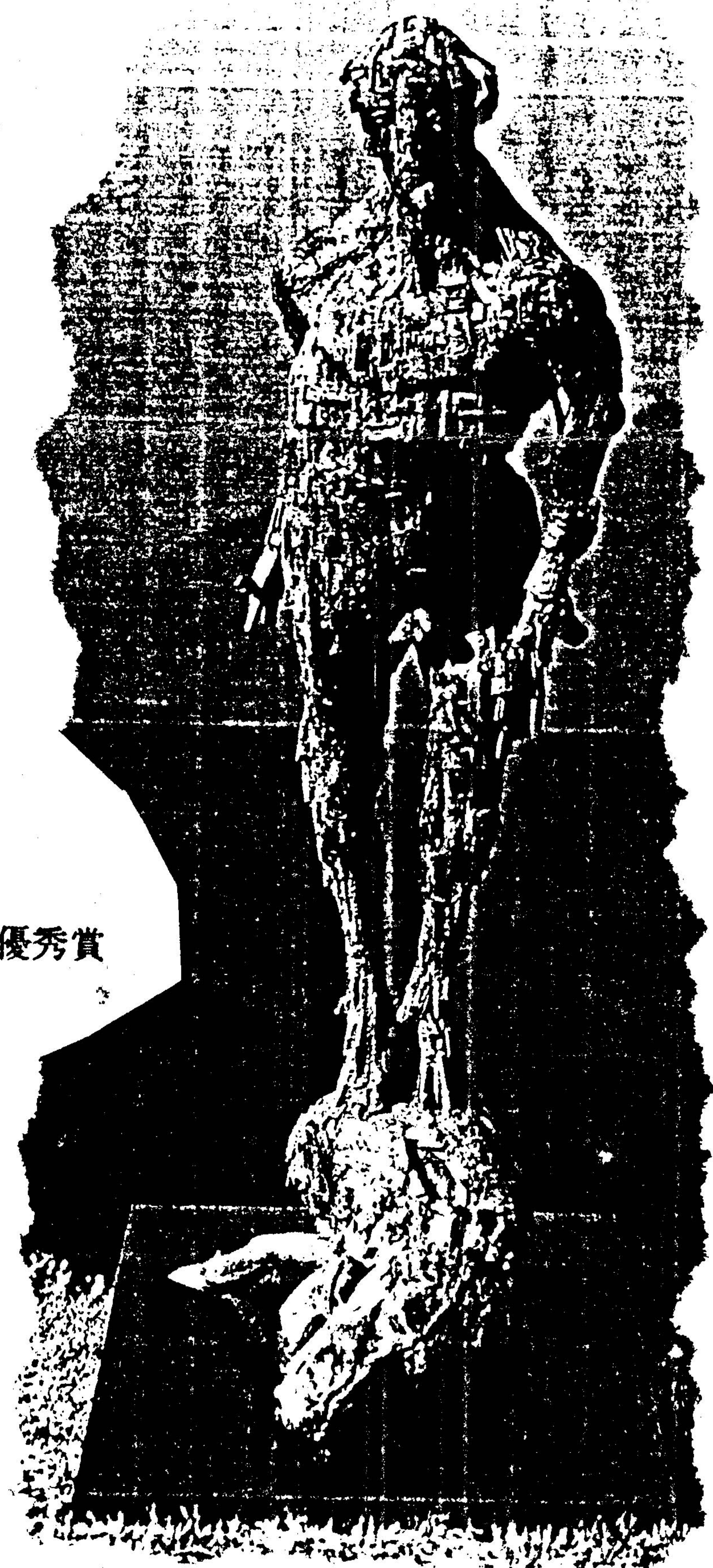
鷹尾俊一略歴

- 1950年 熊本市に生まれる
- 1973年 日本大学芸術学部彫刻科修了
新制作展で新作家賞受賞（東京都美術館）
- 1974年 彫刻新人展（現代彫刻センター、東京）
- 1975年 九州霧島にモニュマン制作
- 1976年 新具象彫刻展を創立、以後85年解散まで出品（東京都美術館）
第三文明展で第三文明賞受賞、以後3回連続受賞（東京都美術館）
彫刻2人展（銀座三番街画廊、東京）
グループBEE展（熊日画廊、熊本 以後2回開催）
- 1977年 北海道厚田にモニュマン制作

メタモルフォーゼ(大)

1984 2,400×800×1,720
(鉄)

第3回高村光太郎大賞展特別優秀賞
美ヶ原高原美術館蔵



鷹尾俊一略歴

1950年 熊本市に生まれる

1973年 日本大学芸術学部彫刻科修了

新制作展で新作家賞受賞（東京都美術館）

1974年 彫刻新人展（現代彫刻センター、東京）

1975年 九州霧島にモニュマン制作

1976年 新具象彫刻展を創立、以後85年解散まで出品（東京都美術館）

第三文明展で第三文明賞受賞、以後3回連続受賞（東京都美術館）

彫刻2人展（銀座三番街画廊、東京）

グループBEE展（熊日画廊、熊本 以後2回開催）

1977年 北海道厚田にモニュマン制作

メタモルフォーゼ(大)

1984 2,400×800×1,720

(鉄)

第3回高村光太郎大賞展特別優秀賞
美ヶ原高原美術館蔵



1978年 第1回新具象秋季展（洋協ホール、東京 以後3回開催）

1980年 第15回昭和会展に招待出品（日動画廊、東京）

1981年 第16回昭和会展で優秀賞受賞（日動画廊、東京）

1982年 第2回高村光太郎大賞展で美ヶ原高原美術館賞受賞（箱根彫刻の森美術館）

第6回彫刻日動展 以後毎年出品

1983年 神戸具象彫刻大賞展で優秀賞受賞（神戸ポートアイランド）

1984年 第3回高村光太郎大賞展で鹿内信隆特別優秀賞受賞（長野美ヶ原高原美術館）

現代彫刻の展開「明日の作家たち」（ギャラリーせいほう、東京）

1985年 昭和会受賞作家展 以後毎年出品（日動画廊、東京）

1986年 HOT HOUSE EXHIBITION（所沢西武）

1988年 三菱仲通り彫刻展（有楽町、東京）

1989年 熊本市流通情報会館にモニュマン制作

「秘められたフォルムを刻む」鷹尾俊一彫刻展開催（西武アート・フォーラム、東京）

現在 無所属



歩く人

1983 1,720×510×1,200

(FRP)

神戸具象彫刻大賞展優秀賞

秘められたフォルムを刻む

鷹尾俊一
彫刻展

会期＝1989年6月23日(金)～7月5日(水) 木曜休館
会場＝西武アート・フォーラム(西武百貨店池袋店8階)